

2009年3月30日

京都大学化学研究所における寄附研究部門の開設について

京都大学化学研究所

AGC 旭硝子株式会社

京都大学化学研究所（研究所長：時任宣博）は、AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）の寄附を受け、平成21年4月1日より寄附研究部門「水化学エネルギー（AGC）研究部門」を開設することになりました。

本研究部門においては、地球温暖化への影響が懸念される温室効果ガス・二酸化炭素の放出を激減させるため、水化学反応研究の基礎を生かし、クリーンな水素エネルギーをつくり出す反応の技術化に必要な実証研究を推進します。

〔寄附研究部門概要〕

寄附研究部門名称：水化学エネルギー（AGC）研究部門（Water Chemistry Energy (AGC)）

研究部門設置場所：京都大学化学研究所内（宇治キャンパス）

寄 附 者：旭硝子株式会社

研究部門開設期間：平成21年4月から平成24年3月まで（3年間）

予 定 寄 附 金 額：2,000万円×3年間

担 当 教 員：教授1名 中原 勝（理学博士）

専 門：物理化学

助教1名 辻野 康夫（理学修士）

専 門：物理化学

〔研究目的〕

化石燃料にエネルギー源を強く依存する現代文明は、京都議定書(平成9年)に従って気候変動を起こす懸念のある温室効果ガスの放出を削減しなければ、このままでは地球環境の危機に直面する恐れがあります。このような状況において、京都大学内に環境エネルギー問題を革新的に解決するための部門を新設することは、地球環境を守り、社会と共に教育と研究を発展させていく上で、有益なことと考えております。

〔研究内容〕

1. 二酸化炭素を水素とカップリングさせて室温で安定な液体ギ酸に固定化・貯蔵する技術。
2. ギ酸を人工燃料として使用する技術。

〔研究課題〕

今世紀の重要研究課題である二酸化炭素排出量の削減および地球温暖化対策に貢献するため、超臨界を含む高温高压条件の水で見出された新しい反応群に関する基礎研究の成果を活用し、人工燃料・エネルギーの開発を可能にする水化学の研究課題に取り組みます。

以上

本件に関するお問い合わせ先

◎京都大学化学研究所

寄附研究部門担当 中原 勝

<http://www.scl.kyoto-u.ac.jp/~yoeki/>

◎ **AGC** 旭硝子(株)広報・I R室長 上田 敏裕

(担当：若杉 TEL：03-3218-5259、E-mail：info-pr@agc.co.jp)